

日本語学習者の「ように」を用いた間接話法の習得状況について

佐藤 香織

On the Acquisition of Indirect Speech Using *yooni* by Learners of Japanese as a Foreign Language

Kaori SATO

Abstract

This paper investigates the acquisition of indirect speech which expresses “order/request” using *yooni* by intermediate and advanced learners of Japanese as a foreign language. This paper also examines how the usage of this type of *yooni* is described in some Japanese textbooks, and considers effective ways of teaching it. The data for this research were obtained from the sentence production tests of 42 participants. The results indicated that about only 20% of the total was able to product well-formed “*yooni*” sentences. Even the participants who passed level 1 of the Japanese Language Proficiency Test (JLPT), fewer than half of them were able to product “*yooni*” sentences, and some of them made pragmatically inappropriate “*yooni*” sentences. The other half who passed level 1 of the JLPT used direct speech using “*to*” sentences. All these things make it clear that we should have learners of Japanese understand the proper situations to use indirect speech, and do communicative drills to enable them to use appropriate “*yooni*” sentences.

【keywords】 Learners of Japanese, “*yooni*”, Indirect Speech, Aspects of Acquisition, Effective Ways of Teaching

要旨

本稿では中上級の42名の日本語学習者に文産出課題を課すことにより、「ように」を用いた「命令、依頼」の内容を示す間接話法の習得状況の一端を探った。さらに、日本語教科書や参考書等での「ように」を用いた間接話法のこれまでの取り扱い方等についても検討し、効果的な文型提示や指導法について考察した。間接話法がふさわしい文脈において「ように」を用いた間接話法を産出できた学習者は全体の20%程度であり、習得状況は決して良いとは言えない。1級合格者については半数弱が「ように」節を産出することができていたが、語用論的に不適切な「ように」節の産出も見られた。また、1級合格者の残りの半数は「と」節を用いた直接話法の文を産出していた。このことから、直接話法よりも間接話法がふさわしい状況があることを理解させた上で、待遇表現の調節も含めた適切な「ように」節が使用できるような運用練習を行っていく必要があると考えられる。(394字)

【キーワード】 日本語学習者, 「ように」, 間接話法, 習得状況, 効果的な指導法

1. はじめに

公的な場面での日本語の伝言の表現としては、(1a)のような「～(いただける／くださる)ように」を用いた間接話法が一般的に用いられる。一方、(1b)のような直接話法は、待遇表現の有無や使い方によって許容度に差はあるが、場合によっては幼稚さを感じさせたり⁽¹⁾カジュアルすぎる印象を与えたりする可能性がある。日本語学習者においても、公的な場面では(1a)の形が適切に運用できることが望ましいと考えられる。

(1) a. 田中さんに、日程のご変更がありましたら、今週中にお知らせ (いただける／くださる) ように お伝えいただけませんか。

b. 田中さんに、日程のご変更がありましたら、今週中にお知らせ (いただきたいです／ください) とお伝えいただけませんか。

(1a)のような「ように」を用いた間接話法は、中級の学習項目として、日本語教科書や参考書で扱われている。しかし、筆者が担当していた日本語能力試験2級合格レベル以上のクラスにおいては、公的な場面での伝言の練習の際に(1b)のような直接話法を用いる学生がほとんどであった。その際、(1a)の形式について説明をしたのだが、学習者からは「この「ように」は何ですか?」という質問すら出てくる状況であった。

上記(1a)の場合の「ように」節は、「言う、頼む、命令する」などの主節動詞の必須成分として、「命令、依頼」の発話内容を示すものである⁽²⁾。学習者は「ように」という形式自体は、目的や結果を表す「ように」や、様態を表す「～のように」など初級段階から目にしているはずであるが、クラスでの反応から(1a)の用法については、中級終了から上級段階の学習者であっても習得しきれていないという印象を受けた。

これまでの第二言語としての日本語の習得研究においては「と」や「って」「かと」などの習得が扱われており⁽³⁾、杉浦(2007)では、間接話法よりも直接話法が優位に習得されることが述べられている。しかし、「命令、依頼」の「ように」節に関しても同様の説明が当てはまるのか、誤用や習得の状況についての詳細な研究は管見の限り見当たらない。

そこで、本稿では中上級の日本語学習者に文産出課題を課すことにより、「ように」を用いた間接話法の実際の習得状況の一端を探る。この結果を踏まえ、日本語教科書や参考書等での「ように」を用いた間接話法のこれまでの取り扱い方等についても検討し、効果的な文型提示や指導法について考察する。

2. 調査の概要

2.1 方法

次のような問題文⁽⁴⁾を提示し、括弧内を自由に記述させた。文法的には、間接話法、直接話法ともに可能であるが、このような文脈においてより適切なのは間接話法である。

〈問題文〉

次の会話は、電話での会話です。取引先の人は木村さんからの電話を欲しがっています。適当な表現を（ ）に書いてください。

会社員：申し訳ありません。ただ今木村は会議中ですが。

取引先：そうですか。それでは木村さんに明日までにご連絡（ ）
お伝えいただけませんか。

会社員：はい、わかりました。木村に伝えておきます。

調査対象者は、秋田大学、宇都宮大学、国際教養大学の日本語学習者（大学生、大学院生）42名である。そのうち21名は日本語能力試験2級（N2⁵⁾）に合格しており、残りの21名は日本語能力試験1級（N1）に合格している。2級合格者の母語別内訳は、マレー語10名、中国語7名、韓国語3名、タイ語1名であり、1級合格者の母語別内訳は、中国語8名、韓国語6名、ベトナム語3名、マレー語2名、ラオス語1名、モンゴル語1名である。

2.2 結果

全対象者中、(2)のような適切な「ように」を用いた間接話法の文を産出したのは8名(19%)であり、そのうち7名は1級合格者であった。

(2) 「ように」を用いた適切な間接話法の文の産出例

- a. ご連絡（くださるよう）にお伝えいただけませんか。(3名)
- b. ご連絡（くださいますよう）にお伝えいただけませんか。(3名)
- c. ご連絡（していただくよう）にお伝えいただけませんか。(1名)
- d. ご連絡（いただけるよう）にお伝えいただけませんか。(1名)

また、文法的には正しく「ように」を用いてはいるものの、「～くださる(いただく)よう」のように待遇表現を適切に使えずに(3)のような文を産出した対象者が2名(4%)おり、2名とも1級合格者であった。

(3) 「よう(に)」を用いた、待遇表現が不適切な間接話法の文の産出例

木村さんに明日までにご連絡(するよう)にお伝えいただけませんか。(2名)
一方、(4)のような直接話法の文を産出したのは11名で、そのうち8名が1級合格者、3名が2級合格者であった。

(4) 直接話法の文の産出例

- a. ご連絡（下さいと）お伝えいただけませんか。(3名)
- b. ご連絡（お願いしますと）お伝えいただけませんか。(3名)
- c. ご連絡（お待ちしておりますと）お伝えいただけませんか。(1名)
- d. ご連絡（していただきたいと）お伝えいただけませんか。(2名)
- e. ご連絡（して下さいませんか）とお伝えいただけませんか。(1名)
- f. ご連絡（してもらいたいと）お伝えいただけませんか。(1名)

また、「こと」節を用いた文の産出例を(5)に示す。このような「依頼」の状況では「よ

う（に）」節と比べると不自然になると考えられる。

(5) 「こと」節を用いた文の産出例

- a. ご連絡（していただきたいことを）お伝えいただけませんか。（1名）
- b. ご連絡（をしてもらいたいことを）お伝えいただけませんか。（1名）

この2名はいずれも1級合格者であった。

次に(2)～(5)以外の、文法的に不適格な誤用例のうち、特徴的なものを(6)に示す。これらは2級合格者の例である。

(6) 文法的に不適格な誤用例

- a. ご連絡（を）お伝えいただけませんか。（6名）
- b. ご連絡（していただきたいんですが、）お伝えいただけませんか（2名）

(6a) (6b) とも、「と」「ように」「こと」などのいわゆる補文標識としての働きをする語が使用されていない。(6b)は「ご連絡していただきたいんですが、そのように（そのことを）お伝えいただけませんか」であれば適格になる。

ここまでの結果を級ごとで表すと、以下の(7)(8)のようになる。これを図1にまとめて示す。

(7) 1級合格者の解答結果のまとめ (21名中)

- ① 「よう（に）」節を文法的にも、語用論的にも適切に使用した。(7名)
- ② 「よう（に）」節を語用論的には不自然だが使用した。(2名)
- ③ 「よう（に）」節は使用せず、「と」節を使用した。(8名)
- ④ 「よう（に）」節は使用せず、「こと」節を使用した。(2名)
- ⑤ 文法的に不適格 (2名)

(8) 2級合格者の解答結果のまとめ (21名中)

- ① 「よう（に）」節を文法的にも、語用論的にも適切に使用した。(1名)
- ② 「よう（に）」節を語用論的には不自然だが使用した。(0名)
- ③ 「よう（に）」節は使用せず、「と」節を使用した。(3名)
- ④ 「よう（に）」節は使用せず、「こと」節を使用した。(0名)
- ⑤ 文法的に不適格 (17名)

また、全対象者の解答の割合を図2に示す。不適格文の産出が47%と最も多く、次いでこの場合語用論的には不自然と考えられる「と」節（直接話法）(26%)が続く。

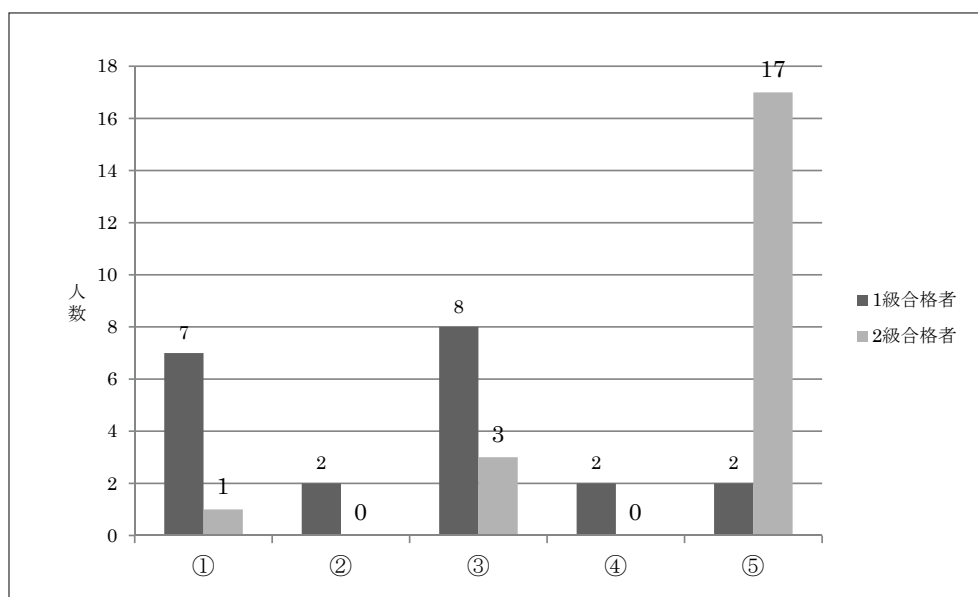


図1 1級, 2級合格者の解答結果

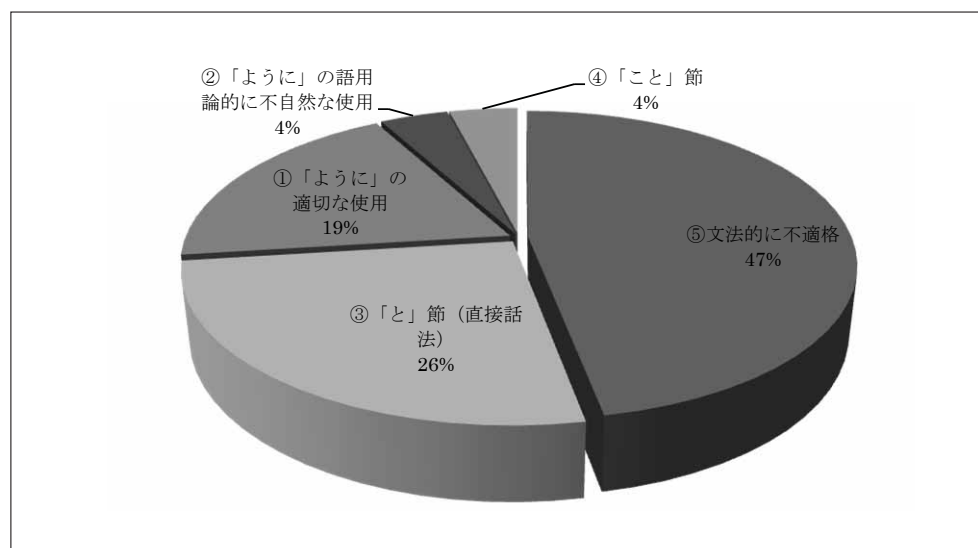


図2 全対象者の解答の割合

2.3 考察

今回の調査結果をみると、「ように」を用いた間接話法を産出できた学習者は20%程度であり、習得状況は決して良いとは言えない。特に2級合格者の大半は、「命令、依頼」の発話引用文自体を産出することができていない状況であった。このレベルの学習者には、直接話法、間接話法ともにまずは形を定着させることが必要であろう。

一方、1級合格者については半数弱が「ように」節を産出することができていたが、(3)で挙げたように待遇表現の調節ができず語用論的に不適切な文の産出も見られた。そして残りの半数弱は「と」節を用いた直接話法の文を産出していた。このことから、1級合格レベルの学習者に対しては直接話法よりも間接話法がふさわしい状況があることをまずは理解させた上で、待遇表現の調節も含めた適切な「ように」節が使用できるような運用練習を行っていく必要があると考えられる。

3. 効果的な指導法の検討

一般的に間接話法そのものが習得困難であったとしても、中級段階で既に学んだはずの文型の習得が、上級レベルになっても依然として不完全な状態である状況は改善されなくてはならないだろう。本節では、「ように」を用いた間接話法の指導にあたって、教師が一層留意しなければならないポイントを指摘し、効果的な指導法について考えてみたい。

3.1 日本語教科書での取り扱い方

本節では、「ように」を用いた間接話法が中級の日本語教科書で導入される際の提示のされ方を検討し、指導の際に留意すべき点を考える。ここでは、各教育機関でよく使用されている中級の総合的な日本語教科書として、『みんなの日本語中級Ⅰ』、『AN INTEGRATED APPROACH TO INTERMEDIATE JAPANESE [Revised Edition] 中級の日本語【改訂版】』（以下『中級の日本語』と記す）、『文化中級日本語Ⅰ』の記述を取り上げる。

3.1.1 『みんなの日本語中級Ⅰ』と『中級の日本語』

『みんなの日本語中級Ⅰ』では2課の新出文型として「…ように言う／注意する／伝える／頼む」が取り上げられている。(9)に例文、(10)に練習問題⁶⁾の例を示す。

(9) a. 先生に明日までにレポートを出すように言われました。

b. 管理人さんに何か言われたんですか。

…ええ、ごみは月曜日以外には出さないように注意されました。

c. ミラーさんにすぐ会議室へ来るように伝えて下さい。

(『みんなの日本語中級Ⅰ』 p.18)

(10) 例 父・言う→わたしは父にもっと勉強するように言われました。

1) 妻・頼む→

(妻「ケーキを買ってきて。」)

2) 医者・言う→

(医者「お酒をやめたほうがいいですよ。」)

3) 母・注意する→

(母：「早くうちへ帰りなさい。」)

(『みんなの日本語中級Ⅰ』 p.19)

また『中級の日本語』では11課の新出文型として「V(plain)ように願ひする／言う／頼む」が出てくる。英語による文法説明と例文を(11)に示す。

(11) ように in this construction indicates that it is an indirect quote of a command or a request. [V(plain, present)ように言う] is equivalent to a sentence with a direct quote such as [V てくださいと言う] or [V なさいと言う].

a. 先生に推薦状を書いていただくようお願いした。

b. お母さんにショートパンツをはいて学校へ行かないように注意された。

c. 夜11時までには帰ってくるように言われた。

(『中級の日本語』 p.210)

この2つの教科書の記述の仕方の問題点は、直接話法と間接話法の表す内容は同義であ

るという認識のみを学習者に与えてしまう可能性があることである。『みんなの日本語Ⅰ』では、直接話法を間接話法に変形する練習しかなく、教師による十分な補足説明や運用練習がないと、直接話法と間接話法の使い分けについてまでは理解されないだろう。また『中級の日本語』でも、(11a) のような「書いていただくように」という待遇表現の調整が行われている例文があるのにもかかわらず、そのことについての説明は全くないので、やはり教師による補足説明が必須になる。学習者にとっては、この文型は提示されたばかりであり、一度にすべてを教えることは難しいかもしれない。しかし、どのような場面で間接話法が使用されるのかは、文型が初めて提示されるこの段階で明確に示しておくべきではないだろうか。

3.1.2 『文化中級日本語Ⅰ』

『文化中級日本語Ⅰ』では、1課の新出文型として「～ように(頼む)」が取り上げられている。(12)に本文中の説明と例文を示す。

(12) 「言う」「伝える」「頼む」等の内容を示す

a. 先生：吉田さん、小野さんに研究室に来るように言って下さい。

吉田：はい、わかりました。

b. (電話で)

良子の母：良子は今出かけておりますが…。

武：じゃあ、お帰りになったら電話して下さいるように、伝えていただきたいんですが。

c. 母は、服装や言葉遣いに注意するように妹に言った。

(『文化中級日本語Ⅰ』 p.1)

『文化中級日本語Ⅰ』は、例文の提示の仕方が3.1.1で述べた2つの教科書よりも優れていると思われる。(12a)と(12b)の違いに着目することで、目下に対する命令(あるいはカジュアルな場面における命令)の場合と目上に対する依頼(あるいは公的な場面における依頼)とでは、「ように」節内部の待遇表現に違いが生まれることを明示的に示すことができるからである。ただ、直接話法と間接話法との違いに関しては特に説明がないので、教師の補足説明や、(12b)のような典型的な伝言の文が定着するような運用練習を行う必要があるだろう。

3.2 学習者が理解しやすい提示の方法を考える

これまで日本語教科書の文型提示について見てきたが、ここでは、「ように」を用いた間接話法について、学習者にとって理解しやすい提示、運用練習の仕方とはどのようなものなのかをさらに具体的に考えてみたい。

3.2.1 『わかって使える日本語』

『わかって使える日本語』は中級レベルの文法の運用力を高めることを目的としたテキストであり、第25課で「ように言う」、「ように頼む」が取り上げられている。間接話法がふさわしい状況とはどのような状況かを考えさせる(13)のような導入があり、「～てくれ

るように頼む」の形の運用練習（14）や、目上の人に依頼する内容を伝えるときの表現についての補足説明（15）もある。

(13) aとbとどちらがいいと思いますか。

課長に (a. 資料を取ってきてくださいと) 言われたので、取りに来ました。

(b. 資料を取ってくるように)

(『わかって使える日本語』 p.157)

(14) 〈新入生歓迎会の準備〉

リー : 司会は、どうしますか。

スミス : (マリアさんに、やってくれるように頼んでおきましたよ。)

例 司会

①プログラム

②歓迎のスピーチ

③学校紹介のビデオ

(『わかって使える日本語』 p.161)

(15) 目上の人に依頼する内容を伝えるときは、次のような言い方をします。

a. セミナーの日程を変更する場合は、早めに知らせてくださるようお願いしました。

b. だれか韓国語の通訳ができる人を紹介していただけませんか、朴先生に頼んでみようと思います。

(『わかって使える日本語』 p.161)

このような文型提示や運用練習を取り入れることで、学習者の理解も一層深まると考えられる。

3.2.2 「ように」の他の用法との関連づけ

「ように」は様々な用法があるため、混乱を防ぐためにも他の「ように」の用法についても折に触れて復習していく必要があるだろう。例えば、「～ようになる」「～ようにする」と「～ように言う」「～ように頼む」を前件と後件で組み合わせて次のような文を作らせるのも、学習者の知識を再整理し、運用力を高めるのに役立つと考えられる。

(16) a. 子供にメールの返信を早くするように言ったら、すぐに電話をかけてくるようになった。

b. 「英語がうまく話せるようになったら、親に留学費用を出してくれるように言うつもりだ。

c. お酒は控えるようにしていたんですが、医者にもう飲まないに言われました。

4. まとめと課題

本稿では中上級の日本語学習者に文産出課題を課すことにより、「ように」を用いた間接話法の実際の習得状況の一端を明らかにした。「ように」を用いた間接話法を適切に使用できる学習者は1級合格者においても決して多くはなく、「依頼」の伝言という間接話法を用いるのにふさわしい文脈であっても、直接話法を使用する学習者も多く見られた。

本稿では、日本語教科書の記述の問題点にも触れ、最初の文型提示の段階で直接話法よりも間接話法がふさわしい状況があることを理解させた上で、待遇表現の調節も含めた適切な「ように」節が使用できるような運用練習が必要であることを述べた。

今後は本稿での結果を出発点として、調査対象者の人数や出題数も増やし、更に精緻な調査を行っていきたい。そして、「ように」という形式が持つ意味や用法全体について、習得されにくいところ、丁寧な指導が必要なところを整理し、指導法の改善に貢献できればと考えている。

注

- (1) 市川(2010)を参照。
- (2) 前田(2006)は「ように」の意味、用法について4用法（類似事態／結果・目的／思考・知覚内容／命令・祈願内容）に大きく分けており、4用法には連続性が見られるが、統語的、意味の特徴がかなり異なることを述べている。「命令・祈願内容」の「ように」については「ように」節内にタ形が現れず、「ように」の「に」が省略できることを指摘している。一方、この「ように」は、生成文法の立場ではいわゆる目的語コントロール述語と共起する補文標識として捉えられる。Nakau(1973),Uchibori(2000),佐藤(2001),内堀(2003)等を参照されたい。
- (3) 詳細は杉浦(2007)に詳しいが、Kaplan(1993)等がある。
- (4) 問題文作成にあたっては、梶本・宮谷(2004)を参考にしている。
- (5) 本稿では2009年までの日本語能力試験2級合格者と2010年からのN2合格者を、どちらも「2級合格者」としている。「1級合格者」についても同様である。
- (6) 実際の教科書本文の中では、直接話法の文が、話し手と聞き手のイラスト入りで提示されている。

参考文献

- (1) 市川保子編著(2010)『日本語誤用辞典』スリーエーネットワーク
- (2) 内堀朝子(2003)「接続法補文の節範疇について」『日本大学生産工学部研究報告B』第36巻, 61-71
- (3) 佐藤香織(2001)「日本語のコントロール構文の成立条件について」『筑波応用言語学研究』8, 29-42
- (4) 杉浦まそみ子(2007)『引用表現の習得研究 記号論的アプローチと機能的統語論に基づいて』ひつじ書房
- (5) 梶本総子・宮谷敦美(2004)『聞いて覚える話し方 日本語生中継・中～上級編』くろしお出版
- (6) 前田直子(2006)『「ように」の意味・用法』笠間書院
- (7) Kaplan, T.I. (1993) The second language acquisition of functional categories: Complementizer phrases in English and Japanese, A dissertation presented to the faculty of the graduate school of Cornell University.
- (8) Nakau, Minoru (1973) *Sentential complementation in Japanese*. Tokyo: Kaitakusha.
- (9) Uchibori, Asako (2000) The syntax of subjunctive complements: Evidence from

Japanese. Ph.D. dissertation, University of Connecticut.

資料

- (1) スリーエーネットワーク(編)(2008)『みんなの日本語中級Ⅰ本冊』スリーエーネットワーク
- (2) 名古屋YMCA教材作成グループ(2004)『わかって使える日本語』スリーエーネットワーク
- (3) 文化外国語専門学校(編)(2004)『文化中級日本語Ⅰ』凡人社
- (4) マグロイン花岡直美・三浦昭(2008)『AN INTEGRATED APPROACH TO INTERMEDIATE JAPANESE [Revised Edition] 中級の日本語【改訂版】』The Japan Times

謝辞

本稿の調査実施にあたり、多大なご協力をいただきました宇都宮大学専任講師の堀尾佳以氏、及び調査に協力して下さった秋田大学、宇都宮大学、国際教養大学の留学生の皆様、心より感謝申し上げます。